

社内向けeラーニング導入や構築に必要な eラーニングシステム(LMS)とは？

※ 無断引用や転載、第三者への送信禁止。



目次

Index

1. eラーニングとは
2. eラーニング構築・導入に必要な要素
3. eラーニングシステム(LMS)について
4. eラーニングシステム (LMS)を導入する際にかかる期間
5. eラーニングシステム (LMS)を導入する際の費用感
6. おわりに

1. eラーニングとは

◆ インターネットを通じて行うオンライン学習

eラーニングとは、1990年代のインターネット普及とともに発展してきた電子・情報化技術を活用する学習形態であり、ITの技術を使った教育システム、教育コンテンツ、教育そのものの事です。eラーニングと対義となるのは、教室内の対面での授業となります。

◆ 企業研修や社内教育、社内の情報共有ツールとして使える

元々教育のメインは対面での授業であり、eラーニングはコンプライアンスのテストなど、授業をサポートし、履歴を蓄積するためのツールとして活用される側面が強かったのですが、ここ最近では企業内研修の一部、もしくは全部がeラーニングに置き換わるケースが増えてきています。いつでもどこでも学習ができるツールという事で、社員個々人のスキルアップに活用されたり、新たに開発した製品について社員の理解を促すなど、社内の情報共有を目的にeラーニングが用いられるようになっていきます。

◆ 学校内教育にも浸透

学校教育現場でのeラーニング活用は、「GIGAスクール構想」としても国が重要な位置づけで進めているテーマのひとつです。学校でPCなどの情報通信機器を活用して、子供同士が教え合う学習形態（協働学習）や課題発見・解決型の学習指導が活発になるように改革が進められようとしています。同様のことは、大学でも授業の質を上げるため、**アクティブ・ラーニング**（※）の必要性が強調されており、**eラーニング**を含めて様々なデジタルソリューションの活用が進んでいます。



2. eラーニング構築・導入に必要な要素

◆ eラーニング学習教材（コース）

eラーニングを実施する上で、学習教材は受講者の満足度や成長度を左右する重要な要素です。より高い学習効果を得るためにも、**ただテキストを読むだけでなく、受講者がわかりやすいような教材を揃えましょう。**

◆ 受講者

次に必要なのが受講者の選定です。**すべての受講者に同じ学習をさせるのでは、効果的な学習に繋がりません。**eラーニングに限らず、学習、教育は、個人のスキル、知識を次のレベルにあげるためにあります。eラーニングを効果的に実施する場合、**対象となる受講者自身の事、属性、興味、必要としていることを把握**した上で、教育、学習したい内容のどのレベルからどのレベルに変化させるのかを認識する必要があります。

◆ 運用設計

eラーニングにおいて、**運用設計は非常に大事なものとなります。**eラーニングは、通常の研修と同じく、対象の受講者に受講してもらわなければなりません。必須のeラーニングではない限り、対象の受講者に対してのプロモーションが必要となります。

◆ eラーニングシステム(LMS)

eラーニング学習システムは、教材を配信、受講履歴を蓄積し、**効果的、効率的に学習を進めるために欠かせない要素**です。学習管理システム（Learning Management System）を略してLMSとも呼ばれます。教材であるeラーニングコンテンツの配信を行うとともに、受講者を登録・管理し学習の履歴を記録する役割を担います。



3. eラーニングシステム(LMS)について

◆ eラーニングシステムの機能

eラーニングシステム(LMS)は、名前の通り学習管理のシステムです。eラーニング用の学習教材を登録し、受講者を教材に紐づけ、学習の履歴を保管していくのが、主な機能になります。管理者が、受講者のカリキュラムを管理、履修管理、成績管理、教材管理などを行い、様々な状況を把握することが可能です。

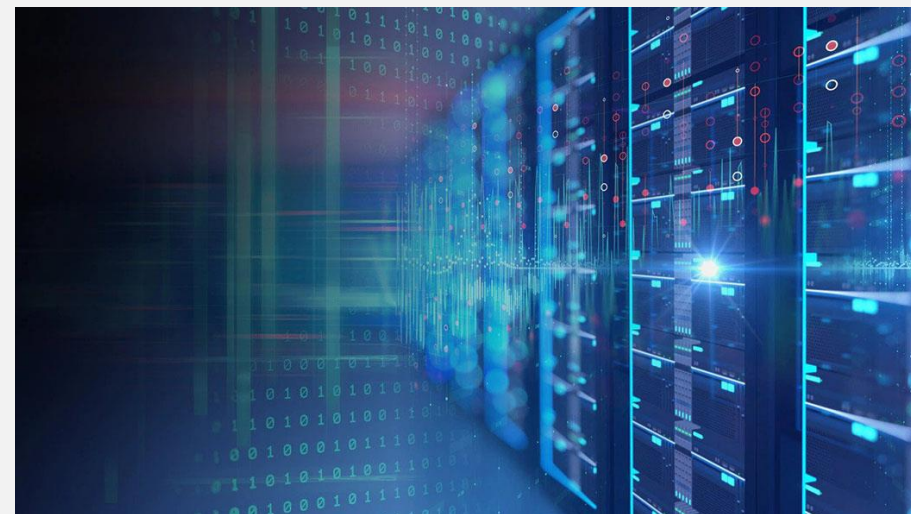
◆ eラーニングシステムの導入形態

① クラウド型

現在主流の提供形態は、オンライン上でサービスを提供するクラウド型と呼ばれる形態です。ベンダーのサービスを利用するので、**申し込みをしてから開始までの時間が短く、低コストで導入でき、保守管理の手間がかかりません。**

② オンプレミス型

自社内サーバに、直接eラーニングシステムを導入する形態です。外部との接続をなくしてセキュリティレベルを高めたい、大人数の受講が想定されるなどで、クラウド型だとランニングコスト上の問題がある場合などに選択されるケースが多いです。ただし、**導入の初期コストが高い、導入に時間がかかる、導入後のサービス監視やサーバ管理、保守などに人員やコストが必要、といったデメリットもあります。**



4. eラーニングシステム（LMS）を導入する際にかかる期間

製品や導入形態により、eラーニングシステム（LMS）の導入の期間は異なります。

◆クラウド型の場合

申し込みからすぐに使えるものから、1か月程度必要なものもあります。

◆オンプレミス型の場合

導入場所、サーバの台数、運用設計の有無など、システム構築と同じようなフローが必要となり、導入まで数か月が必要になることがあります。

あわせてカスタマイズが必要な場合、その内容、ボリュームに応じて、期間が変わります。簡単なものであれば1か月程度、システムを丸ごと作り変えるようなカスタマイズの場合は、半年～1年といった具合で、導入までの期間が必要となります。

システムの導入以外では、搭載する学習教材の準備が必要です。

また、受講者の募集、登録に加えて、受講者への連絡や問い合わせ対応、学習進捗に応じたフォローもどこまでするのか、eラーニングの主催組織や担当者との連絡、制作のフォローなどもしなくてはならない為、そのやりとりでも時間を要します。



5. eラーニングシステム（LMS）を導入する際の費用感

導入費用も導入するシステムの種類や人件費で大きく変わります。

期間がかかればかかるほど費用は上がっていきます。そのため、複数社に見積もりをしてもらい、相場を知ることが重要です。


以下、eラーニングを導入する場合にかかる費用項目をご紹介します。

- ① 導入時の初期費用
- ② 月額料金
- ③ システム維持費
- ④ カスタマイズ費
- ⑤ オプション料金
- ⑥ 既製コースを利用する場合は利用料のみ
- ⑦ 教材作成費用

具体的な金額はサービスを提供している会社によって、大きく異なるので、**まずは見積りを依頼するのが良いでしょう。**



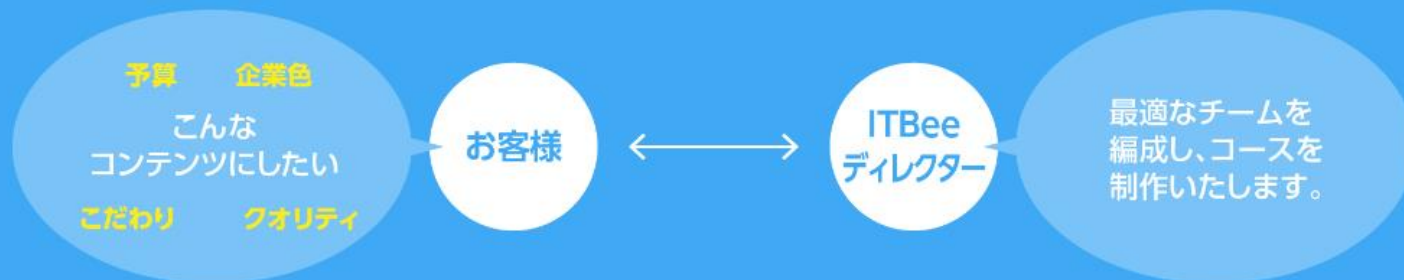
6. おわりに

A person with long brown hair is seen from behind, sitting at a desk and working on a computer. The computer monitor displays several colorful circular charts and graphs. The scene is dimly lit, with the primary light source being the computer screen. The overall atmosphere is professional and focused on data analysis or content creation.

eラーニング コース制作

研修・セミナー・授業・資料から
eラーニングコースを作成します

企画設計から原稿作成・編集まで、 コース制作のすべてをお任せいただけます



企画・設計

伝えたいコンテンツに応じて、伝わりやすい学びやすい構成を設計・提案いたします。



原稿制作

内容を加味して受講者が理解しやすいワードや言い回しにて原稿を制作します。



デザイン

文字サイズ、フォント、強弱、色、バランス、トーンなどを統一し、魅力あるコースにしていきます。



音声収録

プロのナレーターによるナレーションのアテレコを専用スタジオで行います



撮影

研修の撮影はもちろん、工場の設備やシステム等の操作手順など現場の撮影などにも対応いたします。



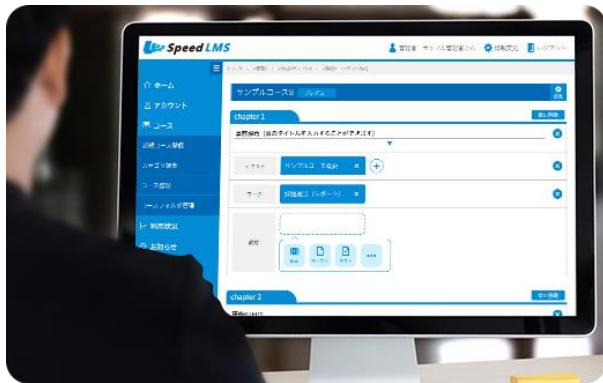
動画編集

チームで行ったクリエイティブを最終的に一つの動画にまとめていきます。

動画配信ツールとして × 情報シェアツールとして × 知識のインプットツールとして

eラーニングシステム 「Speed LMS」製品紹介

eラーニングシステムで働き方の改革を！



「使いやすさ」にこだわったeラーニングシステム！

SpeedLMSは、ITに不慣れな方でもシステム操作で迷わないように、できるだけ簡単に使えるように考え抜かれたシステムです。アイコン操作から、簡単にコースが作れる機能や、動画を配信に最適な形に変換してくれる機能、期限間際の受講者に自動でフォローメールを送信する機能など、できるだけ管理者に負担がかからないように設計されています。Pro版ではさらに、運用上必要な機能の追加、サービスにあったデザインの変更など、カスタマイズを自由自在に行う事が可能です。



セキュリティを重視！開発もデータセンターも日本国内

お客様の大切な個人情報、機密情報をお預かりするために、ITBeeでは様々な取り組みを行っております。情報セキュリティマネジメントシステム（ISO/IEC 27001:2013）（認証登録番号：JP20/080626）を取得。クラウドサービスは、日本国内のIIJ社のGIOを利用。海外に情報が流出しないように配慮しております。プログラムの開発は全て自社内にて行っております。



わかりやすい料金設定。業界最安のプランもあり！

他社様のシステムをご利用のお客様から、基本料金以外に必要なオプションが多すぎて、結局高くてしまうというお声を多数頂いております。SpeedLMSでは、月額のご利用料金の中に動画配信も含めたすべての機能（カスタマイズ機能除く）の費用が含まれます。登録ID数もしくは同時接続数による料金と、Diskの容量による料金のみとなり、動画の配信における「流量課金」はございません。配信時間を気にせずお使いいただくことが可能です。



お問合せはこちら

 03-6276-7142

 info@itbee.co.jp

担当者 : 山中

受付時間 : 10:00~18:00 (土日祝除く)

公式サイト

Web <https://itbee.co.jp>